

令和5年度農業者等との意見交換会（班ごとの意見）

テーマ「北上の農業を守るためには」

各班でテーマに基づき、自由に意見を出し合いました。

【1班】

<現状>

- ・ 中山間地域での農業経営は非常に厳しい状況。
- ・ 水稲だけの単作だが、圃場の条件が悪く、水管理に長時間要する。そのうえ、水持ちが悪いため、雑草が繁茂して管理作業が大変。
- ・ 地球温暖化により、農作物の生育にムラが見られるようになった。
- ・ 地元の若い人たちとの交流する機会がなくなってきた。
- ・ 農業機械は更新を含めて、高額である。補助金を申請するには経営面積の拡大が求められることがほとんどであるため、単純な更新を行うことが困難。そのため、更新をきっかけに離農する人も多い。
- ・ 中山間地の管理状況が難しい。
- ・ スマート農業の土台作りが必要

<課題>

- ・ 若い人たちに農業に関心を持ってもらうためにも、農作物の高収入に向けて、検討が必要。
- ・ 中山間地域の土地利用を考え直す必要がある。
- ・ 農業機械の補助条件の見直しが必要。

【2班】

<現状>

- ・ 後継者不足
- ・ 担い手不足により、地域の特産品の持続が困難である。
- ・ 小規模農地の地区では、担い手も少なく、宅地化が進んでいる状況で作付けが難しい。
- ・ 若い担い手が少ない。周りにもっと担い手がいれば、励みになる。
- ・ 農産物の販売価格が安いため、収入に反映されるのが交付金メインとなる。
- ・ 地権者の理解が得られず、畦畔の除去が進んでいない状況。経営の効率化を進めるためには、畦畔の除去が必要だ。
- ・ 新規就農者のほとんどが野菜作。水稲での新規就農はほとんどいないため、水稲農家の育成も必要である。

- ・ 規模拡大が難しい状況下で、国の補助事業の活用は考えにくい。親元就農への補助が重要になるだろう。

< 課題 >

- ・ 遊休農地の発生を防ぐために、地域が一体となって取り組む必要がある。
- ・ 営農計画を地域の話し合いで計画していく必要がある。
- ・ 補助金について、個人でも申請しやすいように条件を下げしてほしい。
- ・ 親元就農への補助がほしい。

【3班】

< 現状 >

- ・ 農業のノウハウをなしで親から引き継いだ。作業の仕方も分からず、周りから聞きながら作業を行い、田んぼにはヒエが生え、収穫時は大変だった。
- ・ 儲かる農業のためには、売り上げの拡大、設備投資が必要だが、補助金制度を知っているか知らないかで、計画に差が出る。経費のコントロールについて、市の応援が必要だが、補助金の条件は個人で行っている人は対象外。
- ・ 5年に一度の水張りについて、水張りできなければ、補助金の対象外となるが、水張りできない場所は多々ある。
- ・ 有機農業には大変リスクがあり、支援する体制がなければ、取り組めない。
- ・ 農業は経費が増えても、売値にのせにくい現状のため、所得があがらず、魅力がない。
- ・ スマート農業の補助金額が低い。
- ・ スマート農業を推進しているが、実際の効果が分からない。
- ・ 高齢化によって離農者が増えると、残った担い手の負担が大きくなる。

< 課題 >

- ・ 兼業農家をしている後継者に一連の作業を指導するシステムが必要。
- ・ 補助金の条件見直し。
- ・ 補助金申請の説明を分かりやすくしてほしい。
- ・ ふるさと納税で農業支援をしてほしい。
- ・ スマート農業を推進するならば、デモ機を試用できる期間がほしい。
- ・ 廃業する農家を登録して、次に経営する人に安価で譲る支援策がほしい。

【4班】

<現状>

- ・ 農業資材の高騰。
- ・ 米価が安定しない。
- ・ 夏場の労力確保。他産業との労力シェアなどできないだろうか。
- ・ 農地の出し手はいるが、受け手がいない。
- ・ 現状維持または縮小の農家が増えている。
- ・ 一筆ごとの区画が小さい。

<課題>

- ・ 中小農家が農業を続けていけるような助成がほしい。
- ・ 米農家に生産調整させるのではなく、国が海外への輸出や食料援助などに力を入れてほしい。
- ・ 後継者確保につながるよう、J A・市・県が魅力ある農産物のP R活動が必要。

【5班】

<現状>

- ・ 土地改良事業で基盤整備をしてから、10年以上経つ田んぼの暗きよの効果がなくなってきた。
- ・ 農業をやめたいので、耕作してくれる人がいないかの相談が来るが、受け手がなく、対応に苦慮している。
- ・ 後継者不足のため集落で法人を設立したが、法人の構成員も高齢化によって、後継者がいない。
- ・ スマート農業は、経費がかかる。
- ・ 資材価格が高騰し、販売価格に転換できていない。
- ・ 畑地促進支援事業と5年に一度の水張りのどちらに切り替えたらいいか。
- ・ 市の農業支援策が弱い。将来ビジョンを示してほしい。

<課題>

- ・ 地元の食材を学校給食に取り入れてほしい。
- ・ 機械の導入に対する補助が必要。

【6班】

<現状>

- ・ 雇用農業支援事業を活用しているが、冬季の賃金が賄えない。
- ・ 親元就農事業の期間が短い。

- ・ 山間地域の大規模化は無理がある。
- ・ 減反政策の畑を水田に復元するのは困難
- ・ 定年の年齢が引き上げられたことで、退職後に就農する人は減るのではないか。
- ・ 基盤整備や区画整理事業がない状態で農地を守ることは、リスクしか考えられない。
- ・ 農業資材や機械の高騰、年金を元手にしても限界がある。
- ・ 今の 60 代で農業を終わらせてしまう傾向が見える。
- ・ 手作業の仕事が多いため、高齢者はやれる範囲でやっているが人手不足。
- ・ 鳥獣対策の費用が高い。

<課題>

- ・ 鳥獣対策費用の支援策がほしい。
- ・ 農業を続ける環境づくりを早急に実施してほしい。

【7班】

<現状>

- ・ 農作業受託をしているが、年齢による限界がある。
- ・ 今後、機械の更新ができるか不安だ。
- ・ 毎年、耕作面積が増加しているが、労力不足である。また、田 1 枚当たりの面積が小さいため、作業効率が悪い。
- ・ 米を出荷しても経費が多くかかり、利益が上がらず、補助金等で収支が合う現状、子供に農業を継げとは言えない。
- ・ 個人経営者は減少しており、将来的に法人に任せればよいという考えがある。
- ・ 耕作を法人や団体等に委託する農家が多くなってきているが、受け入れ先も限界に近づいてきている。
- ・ 農業法人、団体を設立させるために市独自の補助や支援など何かないだろうか。

<課題>

- ・ 農地の圃場整備にもっと力を入れてほしい。
- ・ 鳥獣被害や耕作困難な地域を守ろうとしている人に対する支援を切望する。

【8班】

<現状>

- ・ 近年の異常気象によって、これまでの知識や経験が通用しなくなっている。
- ・ 人手があっても、作業内容を最初から教えなければならない。
- ・ 常時、手伝える人員の確保が必要。

- ・ 物価の下落と高騰により、経営ができなくなった。
- ・ 小規模農業者の補償を手厚くしてほしい。
- ・ 農地を守るために、法人化をしているが進まない状況でいる。

【9班】

<現状>

- ・ 地元で農業をする人が少ない。
- ・ 農作物の価格が安く、農家の収入が少ない。
- ・ 耕作放棄地の増大。
- ・ 毎年、赤字決算で継続が困難である。
- ・ 農業資材の高騰。
- ・ 地域コミュニティの活性化が必要。
- ・ 地域の共同活動を活発化させる。
- ・ 農業所得が上がらなければ、若者は農業を継がない。
- ・ 冬季の収入源は除雪が主となる。
- ・ 農産物価格の上昇が物価高に追い付いていないため、赤字が増えている。適正な価格を実現するためには、消費者の理解が必要なので、対応を進めてほしい。

【10班】

<現状>

- ・ 法人の廃業により、耕作放棄地が増えた。
- ・ 観光地周辺の農地の景観を考え、放棄地を借りて耕作したい。
- ・ 農機具の更新の判断に困っている。
- ・ 後継者はいるが、担い手がない。
- ・ 農地を守るシステム作りが必要。
- ・ 規模拡大したいが、草刈りや水管理によって拡大できない。
- ・ 農業を続けるにも、経費が高い。